

## 2016年度の情報システム利用状況

|     |   |
|-----|---|
| 著者  | 宮本 貴朗   |
| 引用  | 学術情報センター年報 情報. 23, p.4-5  |
| URL | <a href="http://hdl.handle.net/10466/15620">http://hdl.handle.net/10466/15620</a> |

## 2016 年度の情報システム利用状況

学術情報センター長補佐 宮本 貴朗

2016 年度の『情報』にある統計数値を見ると、本学が提供しているサービスの利用状況だけでなく、社会における ICT 普及の動向が利用者の利用傾向として反映されている。昨年度は、情報基盤システムおよびキャンパスネットワークを年度途中の 8、9 月に更新しているため、前年度同月との比較について後半の半年間は第 3 期情報システムのデータとなるが、昨年度と同様にここ 1 年間の各種の統計データから、学内における ICT 利活用の動向や情報セキュリティ関連の状況について変化を読み解いてみたい。

### スパムメールの一時的な増加

学外からの電子メールの受信状況をみると、年間の受信総数は 1,490 万通から 3,389 万通と 1,900 万通程度増加している。しかし、その内訳をみてみると 10 月から 12 月にかけての 3 ヶ月間のスパムメールだけで 1,800 万通となっており、その差分が受信総数の増加にほぼ匹敵している。その 3 ヶ月間以外では有効な電子メールの受信状況にはあまり変化がみられない。このスパムメール（迷惑メール）であるが、Microsoft Office365 の EOP（Exchange Online Protection）で検知および隔離が行われているため、詳細については不明であるが、集中的に攻撃を受けた or メールアドレスのなりすましによるバックスキッター or なんらかの異常値ではないかと考えている。一昨年ぐらいから、標的型メール攻撃や水飲み場攻撃などの特別な名前がついている攻撃があるが、サイバー攻撃の主流は電子メールと Web を利用したマルウェアの感染であり、昔と同様に現在でもあまりその構図は変わっていない。

### 全学無線 LAN の利用増加

キャンパスネットワークへの接続機器は HMS（ホスト情報管理システム）の登録数でおおよそ状況が把握できる。HMS への登録件数は 15,500 件であり、1,700 台程度の接続数の増加が認められる。内訳をみると無線 LAN 接続台数 1,500 台程度増加しているので、ほとんどがその差分である。これは OPU-Authnet2 および OPU-Student の利用者数の増加によるもので、特に学生の利用数が増加している。

### ポータルシステムの利用増加

各種の情報システムへの入り口となっているポータルシステムへのアクセス数であるが、2016 年度は学生 28%程度、職員 68%程度、教員 54%程度のアクセス数の増加が認められる。教職員に関しては年度後半の第 3 期情報システムの新ポータルシステムだけでなく、年度前半からすべての月でアクセス数が増加している。これに関しては、技術的にもサービスの的にも特に考えられるものはなく、ポータルの利用そのものの普及が進んでいるとみるのが妥当であろう。

ポータルシステムの時間帯別アクセス数は午前 9 時台が最も多く、事務職員のアクセスと学生の授業支援システムに対するアクセスであると想定され、その傾向にも特に変化は

みられない。

ブラウザ別アクセス数では、IE7 はすでにサポートが終了しているのでブラウザの使用が増加したとは考えにくく、IE7 互換を検出した可能性が高い。IE11 は微増、Edge、Firefox、Chrome、Safari は大幅に増加しており、今後の情報サービスにおいてはサポートが必要であろう。

### 学習・支援サイトの利用状況

授業支援システムについては、利用科目数は順調に増加している。また、アクセス数については昨年度と比較すると、延べアクセス回数は減少しているものの、アクセス人数が増加している。学生の所属別データを見ると、授業支援システムのアクセス数において現代システム科学域の学生の利用率が高く、ポートフォリオシステムのアクセス数においては工学域の学生の利用率が高い。各学域における学生への周知方法などが影響していることが考えられるが、原因の詳細については現時点では不明である。

ポートフォリオシステムについては、延べアクセス数およびアクセス人数については特筆すべき経年変化はないが増加傾向にあり、月ごとのアクセス数の動向はみごとに同じ傾向を示している。

### ソフトウェア利用状況

各種のキャンパスサイトライセンスや Mathematica Home Use ライセンスについては、前年度とほとんど変化は無い。ウイルス対策ソフトについては、前年度比で 150%の増加となっている。また、Microsoft 包括ライセンスについては、学外（自宅）利用の利用者数が 200%以上の増加となっている。教職員も同様の傾向を示しており、昨年度から学生についても Web サイトからのダウンロードとなったことが要因だと思われるが、700%程度の増加となっている。

### 情報教育システム利用状況

情報教育システムの利用率は、ほぼ横ばいの状況である。学生の PC やモバイル端末（スマートフォン、タブレットなど）の保有数は増加していると想定されるが、授業の予習復習などにおいてはモバイル端末では作業できないことも多く、PC 端末の必要性にはかわりがない。所属別利用者 1 人あたりの平均利用時間は、知識情報システム学類と獣医学類の学生の利用が特に多く、昨年、一昨年と同じ傾向が続いている。利用場所では C5 棟と B3 棟の利用が比較的が多い。特に端末 1 台あたりの利用時間からみれば、C5 棟の利用時間が圧倒的に多く、18 時以降の利用については C5 棟のみが開放されていることがその要因であろう。

以上、簡単であるがここ 1 年間の各種の統計データから、学内における ICT 利活用の動向や情報セキュリティ関連の状況について報告する。